

平成24年度「キャリア・デザイン」実践報告

キャリアデザイン委員会 平野延行・渋木陽介・吉岡昌悟・田中友紀子
川上有正・岡 聖美・中井 毅・今野良祐
茂木好和・小澤信治・平田佳弘・嶋田昌夫

前年度より移行した新教育課程において、「キャリアデザイン」は新たな開発科目としてスタートを切った。2年目の本年は実践報告やアンケートをもとに、この科目の意義と問題点を検証する。旧課程に存在した「産業理解」との比較を通じて、本年度の時間数減が生徒のキャリア意識にどのような影響を与えたのか、次年度以降の「キャリアデザイン」の更なる改善に向けて必要となる教育内容とは何かについて考察した。

キーワード：キャリア教育 「学び」のスキル 産業理解 科目選択

1. 本年度の概要

本科目は、前年度より移行した新教育課程における新たな開発科目である。2年目となる本年度の授業計画の作成にあたっては、大枠として前年度の内容を継続し、その内容の妥当性を検証し、さらなる充実化をはかることを念頭に置いた。

本科目の設置理由ならびに目標は以下の通りである
(平成23年度研究大会資料より)

1) 設置理由：

- (ア) 「学ぶ楽しさ」を生徒に実感させる
- (イ) 総合学科における学びのスキルを獲得させる

2) 科目の目標：

- (ア) 本校での学びを進めるための基礎力を身につける。
(学びのスキル)
- (イ) 場面に応じた行動を取る能力を身につける。
(ソーシャル・スキル)
- (ウ) 自己の生活をコントロールできる能力を身につける。
(マネジメント・スキル)

まず、授業計画の段階から、検討すべき課題が提示された。科目が設定している「総合学科における学びのスキル」とは何か。「目標」が示す「学びのスキル、ソーシャル・スキル、マネジメント・スキル」は、どの点で「総合学科における学びのスキル」なのか。それぞれが本校における高校生活において、具体的にどのような形で必要とされるのか。そもそも「総合学科における学び」とは何を指しているのか。また、それらスキルと「キャリア形成(デザイン)」との関係は何か。そもそも、本校が生徒にデザインさせたい「キャリア」とは何か。

これら重要な問いに対して、教員個々人に、それぞれの答えはある。しかし、学校集団として共有し、継続するに足るほどの具体的な答えは確立していない。そうである以上、本科目が初年度に掲げたこれら目標も完成されたものではない。継続的に検証し、熟議していくべきものである。

そうした現状認識に立ち、本年度の実践では、まず第一に、科目の目指すべき目標そのものについて、前年度の目標を具体化し、発展的に深化させることに取り組んだ。以下が生徒に示した本科目の目標説明である。□

資料 キャリア・デザインとは

本校では、皆さんに、常に「遠い未来」に何をしたいのか考えて、そこへつながるものとして、「現在」をとらえてほしいと思っています。例えば、皆さんは、自分自身で時間割を組み立てます。しかし、それは単に「近い未来」の時間割を組むということではなく、その後が続いていく自分の遠い未来を考え、そこへつながるものとして、時間割を作成していきます。

この、現在からつながっていく「遠い未来」への毎日を、本校では「キャリア」と読んでいます。そのキャリアをデザインする、つまり、あなたの人生を設計するための学びが、「キャリア・デザイン」です。

ただし、勘違いしないで下さい。この科目で「人生設計」(どんな仕事について、何歳で結婚して・・・等々)

をするわけではありません。それは、今の皆さんにはあまりにも非現実的な話です。

あくまでもこの科目では、その準備をします。どのようなキャリア(人生)を生きたいかは、人それぞれです。しかし、どのようなキャリアであっても、共通して求められる「力」は存在します。キャリア・デザインでは、そのなかの、以下の3点について身につけていきます：

1. 粘り強く「日々、学び続ける力」
2. 問題を「発見する力」
3. 問題の解決を目指し、他者と「共有する力」

まず、「日々、学び続ける」こと。これが全ての基本です。どのような未来であれ、そこにたどりつくためには、何かを根気よく学んでいく必要があります。また、知識や経験は、人の世界を広げてくれるものです。学び続けることこそが、あなたをあなたの想い描く未来へと運んでくれます。この授業では、その訓練を行っていきます。注意をひとつ。自分が何かを知っていると思った瞬間に、その人の学びは終了します。常に好奇心を旺盛に、積極的に学び、学び続けてください。

つづいて、「問題を発見する力」です。しかし、これは相当に難しい課題です。例えば、あなたの思い描く未来が「世界の平和に貢献すること」だったとする。それを実現するために解決しなければならない問題は、何でしょうか？それがわかれば、あとは実行するだけ。でも、それがわからないから困るのです。問題発見とは、あまりに難しい仕事です。ですので、この授業では先生方が「問題」を設定します。そして皆さんは、その問題の中から興味ある課題をひとつ選択し、解決を目指します。これは練習です。まずは先生の「発見」した問題を参考にして、あなたの「問題発見」へとつなげて下さい。

さて、問題が発見できたなら、それを他者と「共有する」ことも重要です。独りでできることは限られています。だからこそ、あなたの大発見を、あなたの周囲の人々と、共有して下さい。人に語り、人に聴くことで、仲間が増えます。そして一緒に考えて協力し、解決を目指します。

以上が、キャリア・デザインの授業で行う具体的な内容です。ただし、これらは全て、「キャリア・デザイン」

として行うことを常に忘れないで下さい。つまり、あなたの「キャリア」(人生)とつなげて考えるように努力して下さい。あなたの「キャリア・デザイン」のために、学び続け、問題を発見し、共有する力を訓練するのです。

ところで、あなたの遠い未来、あなたの人生の目標は、何ですか。それは誰にも教えられません。この授業でも教えてくれません。そして簡単に見定められるものではありません。それこそ、今のあなたが抱える第一の「問題」です。その問題を解決するために、つまり、あなたの人生の目標を発見するために、「日々、学び続けて」下さい。そしてあなたの生活を、あなたの「遠い未来」とつなげて考えて、あなたの生活の中にヒントを発見して下さい。その発見を、人と共有して下さい。そしていつか、あなたの人生の目標を見定められたら、今度は、その実現のために日々学び続け、解決すべき問題を発見し、人と共有して下さい。健闘を祈ります。

まず、「キャリア」を「誕生から始まる過去、現在、未来をつなぐ一本の道程」と定義した。そしてそのうちの未来を「近い未来(本校での高校生活)・中くらいの未来(近い未来の先にある、高校卒業後の生活)・遠い未来(中くらいの未来の先にある、自己実現)」の3つに区分した。そして「遠い未来」へとつながるものとしてこれからどう生きていくのか、それを考え、計画することを「キャリア・デザイン」と呼ぶこととした。そしてそのための基礎力を身につけることを、授業の具体的な目標と設定した。

なお、上述したような考え方に立てば、たとえ高校1年生であっても彼らの「キャリア」はすでに始まっている。前年度では、彼ら生徒には「キャリアのデザインは困難すぎる」との趣旨から通称として「Pupa(さなぎ)」が用いられたが、この点において、本年度は正式な名称を使用することとした。

続いて、授業の具体的な目標として、改めて3点を設定した。前年度に掲げられた目標のうち「(ア)本校での学びを進めるための基礎力」については、その意味する具体的な像をついに獲得することができなかった。そのため、一般論として、「学ぶための基礎力」について設定した。それが「学びを継続する力」である。また他方、「(ウ)自己の生活をコントロールできる能力」の伸長をも、この目標において狙うこととした。そしてそれらを

育むための支援として、前年度に引き続き、週単位で自らの学習を記録して報告する「一週間の記録」の提出を要件づけた（別紙）。

「(イ) 場面に応じた行動を取る能力（ソーシャル・スキル）」については、教育実践一般の普遍的な目標であるため、ことさらそこに特化した目標は設定しなかった。しかし、そうした社会関係調整能力があるがゆえに実現できる、さらなる発展的な目標として、「問題意識を共有し、仲間を増やし、そして問題解決の可能性を高める力」を設定した。

以上に加え、本年度の新たな目標として、「問題発見力」の伸長を設定した。キャリア形成とは、一面において、連続的な問題解決の営みである。何らかの目標を実現するために、障害や困難を克服していかなければならない。そうであるなら、その第一歩は、そこにある問題そのものに目を向けることである。それが十分にできればこそ、その解決のための具体的な試行錯誤が始まる。生徒のキャリア形成において、問題発見への積極的な姿勢は不可欠な要素である。

2. 授業日程ならびに内容

以上の目標のもと、前年度に引き続き、本年度も担当者個々の問題意識を題材とした講座学習を行った。実施は原則として隔週の土曜日、各3時限を配当した。また、参加する講座は1学期と2学期とで変更し、多様な内容に触れられるようにした。2学期の最後に発表の場を設け、学習成果を共有した。各講座の内容は、別表の通りである。

3. キャリアデザイン・産業社会と人間の効果検証

3-1. 検証の目的と観点

本年度は新教育課程に移行して2年目を迎え、当初の構想を引き継ぎながらも、この科目の抱える問題点も見えてきた年度であった。旧課程に施行されていた「産業理解」との違いを考えながら、生徒に対して実施したアンケートをもとにこの科目の「現在地」を探ることがこの節の目的である。そこで、本節では検証のポイントを以下の2点に絞った。すなわち

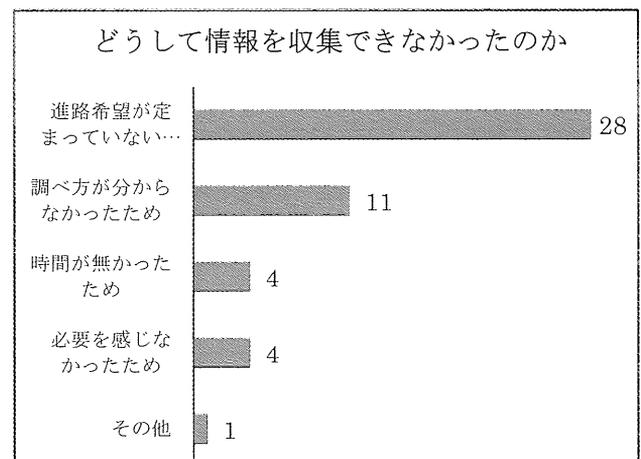
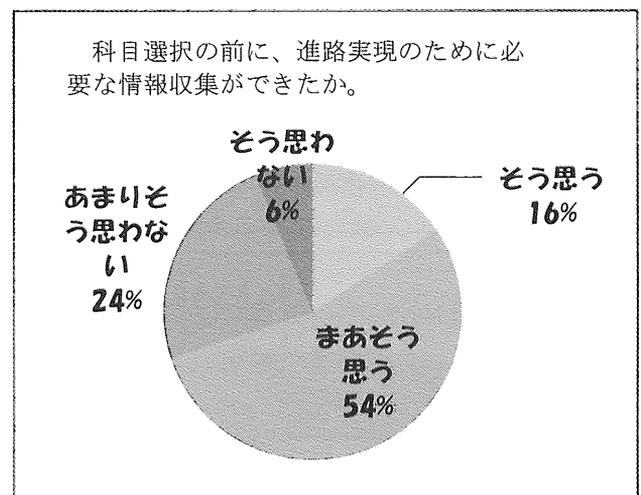
- ① 従来の「産業理解」分の時間数減は生徒のキャリア意識にどの程度影響があったか
- ② キャリアデザインはその補完科目として機能しているか

3-2. アンケート分析①（H24 産業社会と人間）

これらのことについて検証する為に、本科目は同じく1年次において実施されている「産業社会と人間」のアンケートによって、生徒の「キャリア意識」の異同を見ながら、キャリアデザイン独自のアンケートを分析し、その異同の原因を考察することで、この検証に応えたいと思う。

以下は本年度の「産業社会と人間」のアンケート結果の一部である。

（表1）平成24年度「産業社会と人間」アンケート結果（一部抜粋）



ここで抜粋したのは、「生徒が情報収集を行ったかどうか」また「あまりそう思わない」「そう思わない」と答えた生徒が「なぜできなかったのか」という質問項目に対する回答の集計である。この項目が抜粋されているのは、「産業社会と人間」「キャリアデザイン」をキャリア教育の中に位置づけた時に、「キャリア意識が高まった状態」を規定するにはかなり多種多様な観点が必要だが、「情報収集を行ったかどうか」というのは、そこに踏み出した

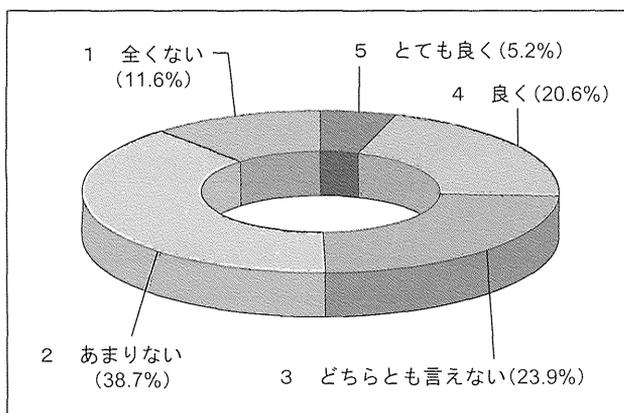
めの最も基礎的なキュー (“cue”) となる行動だと考えられるからである。加えて、この項目に関しては、過去の「産業社会と人間」においても質問されているので、比較が容易である、という事情もある。

さて、この質問項目に対して否定率30% (計48名) はどのように考えるべきだろうか。比較の材料として以下に平成11年、12年の同じ質問項目の回答を掲げたい。

〈表2〉平成11年11月実施 進路指導アンケート
(1年次対象)

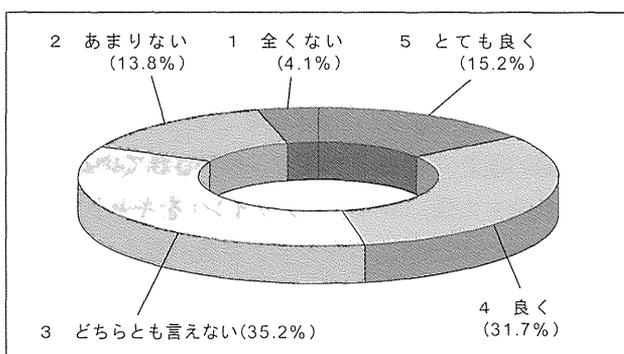
「進路選択に必要となる就職・進学に関する情報を収集していますか。」

5 とても良く	8
4 良く	32
3 どちらとも言えない	37
2 あまりない	60
1 全くない	18



〈表3〉平成12年10月実施 進路指導アンケート
(1年次対象)

5 とても良く	22
4 良く	46
3 どちらとも言えない	51
2 あまりない	20
1 全くない	6



この年度のデータをここに示したのは、平成12年度が「産業理解」の施行1年目にあたるからである。「3どちらともいえない」が含まれるので、厳密な比較にはなり得ないが、それでも一定の傾向は見てとることができる。顕著な傾向としては11年度から12年度にかけて、この項目の否定率が激減 (50.3% (78人) →17.9% (26人)) していることがあげられる。さらに「産業理解」はこの平成12年の施行から年を追うごとにその内容を改善させていることを考えれば、本年度の「否定率30%」は生徒のキャリア意識の減退を表す数値ではないか、という推論は一定以上の信憑があると考えられる。

ただし、ここで注意すべきなのは現行の「産業社会と人間」は旧教育課程の中で「産業社会と人間」と「産業理解」が併設して施行される中で「産業社会と人間」の中に「産業理解」で行われ、かつ精選された部分を取り込むことで発展的に解消したものである、ということである。つまり下記のような関係性である。

第1期 (平成11年度以前)

旧「産業社会と人間」のみ

第2期 (平成12~22年度)

旧「産業社会と人間」+「産業理解」

第3期 (平成23年度~)

現行「産業社会と人間」

(旧「産業社会と人間」+「産業理解」精選)

したがって、現行の「産業社会と人間」に旧課程のものと比較して生徒のキャリア意識に減退があったとすれば、「産業理解」を精選した過程で削られた教育的要素があり、その部分をキャリアデザインでは補完できなかったと見るべきなのである。そこで次項では教科「産業理解」の特質について考えたい。

3-3. 「産業理解」とは何か

教科「産業理解」については管見の限り『筑波大学附属坂戸学校研究紀要第43集』「産業理解」6年目の実践報告が最も詳しい。そこには簡潔に教科「産業理解」の設置目的が述べられている。

「産業理解」の目的は端的に言えば「現行の「産業社会と人間」を補完・強化する新科目を開発することによって、生徒に社会に対する認識を深めさせ、学習意欲を喚起する」(2節 産業理解の開発理念より)

そして、その当時の「産業社会と人間」に欠けていた部分とは、同節によれば「社会全般に対する具体的な認識」（傍線部本稿筆者）であることが指摘されている。そこで「産業理解」においては「産業や社会全般に対する見識を深めるための学び」が設定され、「金融」についての具体的な学び（日本銀行、東京証券取引所の見学など）や「情報」についての具体的な学び（パソコンの解体作業など）、その他に「環境」「福祉」といった各キーワードに沿って学習が構成されていた。

一方で、本年度の「産業社会と人間」の一年間の取り組みを省みる（前掲「平成24年度「産業社会と人間」実践報告」指導計画参照）と、社会の中での自身の生き方について考える項目はある。しかし、社会の構造や成り立ちといった社会そのものについての学びの機会がほとんどない。この部分こそが精選の際に、生徒のキャリア意識の涵養に関わって、抜け落ちた部分なのではないかと考えられるのである。

3-4. アンケート分析②（H24「キャリアデザイン」）

では、本年度の「キャリアデザイン」はこのような力（キャリア意識を涵養し、生徒に定めた目標の為に、あるいは目標を定めるために生徒を駆り立てる力）の補完として機能しなかったのだろうか。そこで本年度の「キャリアデザイン」の結果を【資料1】として掲げる。これらの結果から述べられることとして、大きく3つのことが挙げられる。

一つには、全ての項目において肯定率が63%~91%の間で推移しており、平均値77%であった。したがって、生徒のこの学習に対する自己肯定感は全般に「概ね良好である」と言える。

二つ目に言えることは、その中でも特に肯定率が高い項目は

- ① 情報の整理・義務の遂行・学び方考え方
- ② 横断的学習・探求的学習
- ③ 解決への協働

の6項目であり、これらの内実は①~③の分類において、前掲の「3つの力」に正確に対応している。つまり、生徒は3つの力の個々においては学習の実感があり、有為な活動であったと考えているということである。

三つ目に言えることは、特に肯定率の低かった項目は「CD（キャリアデザイン）意識」の項目であり、これは、生徒がそれぞれの学習活動を自身のキャリア形成につながりを持つものだと認識して学んでいたかどうかを問う項目である。これが最も低いということは、すなわ

ち、生徒は3つの力の個々においては身につけられた実感を持ちながらも、それらの力を自身のキャリアに応用可能なものとしてはとらえられていない、ということの意味している。

設定した3つの力は勿論、生徒が自身のキャリアを構築していく上で非常に重要な力であることは間違いない。だから、その学習は一定の意味を持ちうるだろう。だが、生徒自身にそれらを総合的にとらえて、自分自身のキャリアの為に向かわせる視線（たとえば「社会」への理解）がなければ、結果として生徒を行動にまで導くことは難しい。そして、このことは長い目で見た場合には生徒のキャリア構築のための力の涵養として意味を持つが、少なくとも生徒の実感・直近の課題（科目選択※本校では1年次の冬に2年次・3年次の科目申請を行う。）には応えられていない可能性を示唆している。

3-5. まとめ及び今後の課題

本年度の検証の結果を述べれば次のようになる。

- ① 従来の「産業理解」分の時間数減は生徒のキャリア意識にどの程度影響があったか
→「産業理解」実施時と比較すると、生徒の行動に変容が見られる。その変容は生徒のキャリア意識の相対的な減退を示す可能性が高い。
- ② キャリアデザインはその補完科目として機能しているか
→「産業理解」とは別の機能（「3つの力」に代表されるキャリア構築の基礎的な力の育成）を有しており、かつての「産業理解」の機能を補うような科目としての科目設計はされていない。

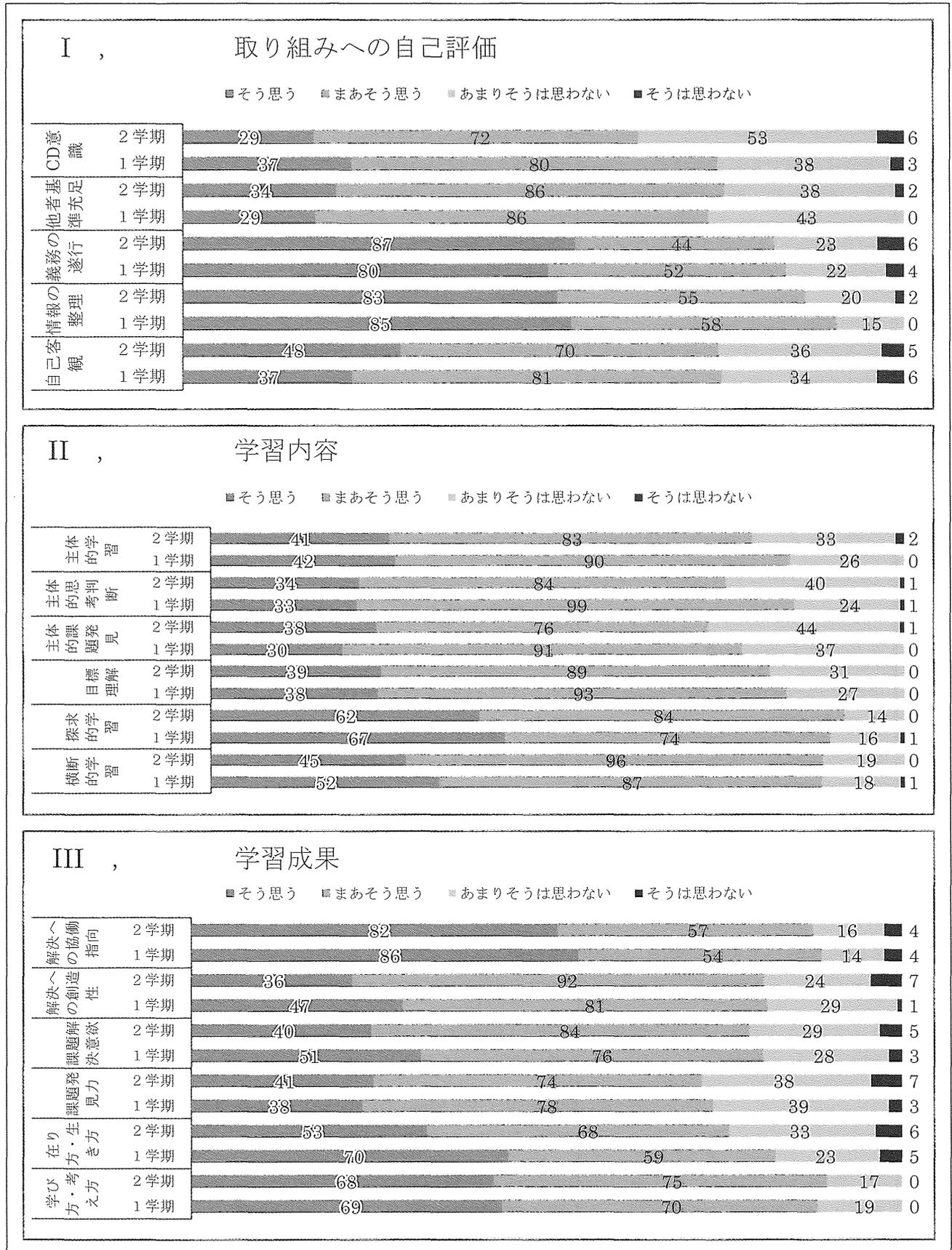
したがって、今後の「産業社会と人間」「キャリアデザイン」については大きく2つの方向性が見出せる。一つは、「キャリアデザイン」を完全に「産業社会と人間」の補完科目と位置付け、「産業理解」の機能を引き継いだ科目設計にすること。具体的には、現在「3つの力」に軸を置いて展開している各講座に、必ず「社会全般への具体的な学習」を組み込む形が考えられる。もう一つは「産業社会と人間」と「キャリアデザイン」を完全に分離すること。この場合は「産業理解」の担っていた機能を別のところで、たとえば、「産業社会と人間」への精選の仕方をもう一度検証し直す作業などが挙げられるだろう。この場合は「キャリアデザイン」は「キャリアデザイン」でキャリア教育全体の中で、この科目独自の機能をより

先鋭化させていく必要があるだろう。いずれにせよ、今後も新しい教育課程の中で、これまでのキャリア教育を維持し、また発展させる試みと検証をくり返し重ねていく中でよりよい形を模索していきたい。

【参考・引用文献】

- 筑波大学附属坂戸高等学校 (2001). 『「総合学科を創る」』. 学事出版.
- 筑波大学附属坂戸高等学校 (2012). 『新時代の総合学科—総合学科パイオニアに学ぶ基本理念と新たな可能性』. 学事出版.
- 加藤敦子ほか (2005). 「「産業理解」6年目の実践報告」. 『筑波大学附属坂戸高等学校研究紀要』第43集・pp45～59.
- 大平典男ほか (1997). 「本校進路指導の現状と今後の取り組み」. 『筑波大学附属坂戸高等学校研究紀要』第35集・pp27～34.

【資料1】 キャリアデザイン アンケート結果



〈別表〉 各講座の内容 (生徒配布資料)

講座名	内容
<p>知ろう！守ろう！伝えよう！ 多種多様な生物たち</p>	<p>私たちヒトが生物多様性から得られるさまざまな恩恵をこれからも受けられるように、自ら調べよく理解し、私たちは何ができるか、何をすべきかよく考え、実行することを通して、学びのスキルとソーシャルスキルを身につける。</p>
<p>超・国際理解入門 (1学期のみ)</p>	<p>グローバル化と言われるこの時代を生き抜くためには、まずその第一歩としての国際理解が必要です。この講座では、単なる「理解」の段階にとどまらず、その先にまで踏み込んでほしいという思いから「超」と頭に付けています。さあ、みんなで超えよう！</p>
<p>資料を探す・集める・比べる・読み解く～文献学入門～ (1学期のみ)</p>	<p>現代の日常的な政治問題について(税金の値上げ、TPP、原発 etc.) テーマを選択してディベートマッチを行います。情報の収集、分析、統合のプロセスを通じて、現代の情報格差社会に必要とされるリテラシーの基礎を身につけます。また、図書館利用の基礎についても学びます。</p>
<p>ものづくりから学ぶ (1学期のみ)</p>	<p>ものづくり実習から学びのスキルを習得しましょう。実習と観察の繰り返しから理論と技術を体得し、学びの楽しさを知ろう。</p>
<p>ワード・エクセルを基礎から学ぼう！ (1学期のみ)</p>	<p>ワード・エクセルの基礎を学び、今後の学習活動の準備をしよう！</p>
<p>親になることって？～子育てについて考える～</p>	<p>将来、親になっても親にならなくても、大人として子どものことを考えられる人になる。</p>
<p>動物園にパンダは必要か？～動物園のあり方を考える～</p>	<p>ヒトはこれまでたくさんの動物たちと関わりを持って暮らしてきた。その一つである「動物園」は必要なもののだろうか。高校生としての動物園の見方、考え方を身に付けていきたい。</p>
<p>オリンピックを学ぼう</p>	<p>オリンピックの学習を通して、オリンピズムを学び、自分の今後の生き方に役立てる</p>
<p>ダイエットと健康</p>	<p>近年高校生がダイエットに興味関心を示し色々なことに取り組んでいる。果たしてそれは本当の意味で健康に影響はないのだろうか？この点についてダイエットが健康に及ぼす影響について考える。</p>
<p>エネルギー供給について</p>	<p>将来的に懸念されるエネルギー供給について、各種エネルギーを調べながら、安全・安定性を考え、安心・安全な社会の実現を目指す活動を通し、学びのスキル、ソーシャル・スキルを高める。</p>

講座名	内容
核兵器を持つ国と持たせまいとする国（1学期のみ）	北朝鮮やイランが核兵器開発を企てているとして、国際的な制裁等が検討され、また実施されている一方で、すでに核兵器を保有している国は既得権のように問題とはされない。なぜ核兵器を持つ国とするのか、またすでに持っている国がなぜ他の国に持たせないように制裁を加えるのか。参加者で議論を深める。
「平和」とは何か・ 日本は「平和」か	平和とは何だろうか。そして日本は平和なのだろうか。映像や文献資料、また平和博物館の見学を通し、それぞれの答えを探していく。
超・社会貢献入門 （2学期のみ）	勉強ばかりして頭でっかちな大人になるだけでは人生あまり意味はありません。また、自己満足のためだけに行動しているようでは社会人とは言えません。皆さんには学んだことを社会に生かす人生を送ってほしい。本講座では、皆さんのキャリアをデザインするうえで入門で終わらせてほしくない想いから「超」と頭に付けています。さあ、みんなで超えよう！
ディベートマッチで論理力を鍛える（2学期のみ）	表題にはディベートをあげましたが、毎回違った主題で、また様々な形式で話し合いを行います。討論で相手を打ち負かすことだけでなく、集団で議論を洗練させまとめていくことや、とにかくアイデアをたくさん出すこと、魅力的なプレゼンをするなど演習形式で学んでいきます。
ものづくりから学ぶ ～入間の伝承食について～ （2学期のみ）	地域に昔から伝えられてきた食材やそれを活用した伝統食への理解を深め、高校生の視点から伝統食の新たな価値を見出し、次世代への伝承する方法を考えていく。
英語で多読に挑戦！ （2学期のみ）	簡単な英語で書かれた本を原則として辞書を使わないで読む活動を行う。またその感想、印象をまとめ、担当教諭またクラスの仲間と共有する。簡単な英語で書かれているとはいえ、意味のわからない単語や表現、文章に出会うことになるが、ストーリーを自分の頭の中で構築して、不明の部分を補う思考力が必要となる。
旅を創り、旅を語り、旅を楽しもう！（2学期のみ）	自分なりの「こだわりの旅」を創り、実践する。そしてその「こだわり」を自らの内に留めるのではなく、他者に伝え、共感しあえる力をはぐくむ。

別紙. 1 週間の記録

1 週間の記録 () 組 () 番 ()									
今週の優先してやること (To Do List) 評価は◎、○、△、×					達成度 評価			評価の理由	
①									
②									
③									
④									
⑤									
月 日	曜 日	欠席/遅刻科目、 理由	学習活動 ・読書など (分)	部活動など (時間帯)	食事 (○、×)			睡眠 時間 (分)	運動 時間 (分)
					朝	昼	夜		
	土								
	日								
	月								
	火								
	水								
	木								
	金								
今週の努力した点、反省すべき点とその対策、困っていることなど (150字程度)									
指導教官より									